

【W4】ダルクローズ・リトミック ～音楽を体験して理解する～

【講師】村中 幸子

【要旨本文】

リトミックはスイス人の音楽家、エミール・ジャック＝ダルクローズ (Emile Jaques-Dalcroze 1865～1950)によって考案された音楽教育法で、欧米では創始者の名を冠して、ダルクローズ・メソッド (Dalcroze Method)、ダルクローズ・リトミック (Dalcroze Rythmique)、ダルクローズ・ユーリズムクス (Dalcroze Eurhythmics) 等と呼ばれている。

1892年、ジュネーヴ音楽院で和声学の教授として教育の場に立ったジャック＝ダルクローズは、学生の音を聴取する能力やリズムの変化を正確に判断する力が乏しいことを発見し、これらの問題を解決するために身体の動きや即興演奏を伴う新しい指導方法を考え出す。これが、ダルクローズ・リトミックの始まりである。

ダルクローズ・リトミックは「ソルフェージュ」「リトミック」「即興演奏」という三つの分野から成り立つ。「ソルフェージュ」はメロディーやハーモニー、調性感など、主に聴く感覚を養うためのトレーニングで、歌うことを通して行う。「リトミック」は身体の動きにより音楽を全身で感じ、経験し、表現するためのものである。強弱や速度、拍子やアーティキュレーションなど様々な音楽要素を動くことにより体験的に学ぶのだが、殆どの場合には決まった振り付けはない。ダンス等の舞踊とは根本的に目的が異なるのである。そして「即興演奏」は、ソルフェージュやリトミックを通して学んだ内容を、楽器や声を使ってクリエイティブに表現する活動である。

この教育法は非常に汎用性が高く、今日では演劇や舞踊、幼児教育、小学校教育、音楽療法など多岐に渡る分野に取り入れられている。しかし一方で、音楽に合わせて動く活動の総称として「リトミック」という言葉が用いられることも多く、ジャック＝ダルクローズの理念とは全く関係がない場合もあるため、注意しなければならない。

ダルクローズ・リトミックの基本は、体験を通して音楽を理解することにある。短い時間ではあるが、本ワークショップを通して、今まで「知っている」と思っていた様々なことについて一つでも新しい発見をしていただくことができれば幸いである。

【講師プロフィール】

国立音楽大学教育音楽学科第Ⅱ類卒業。ニューヨーク・ダルクローズ音楽学校、ボストン・ロンジー音楽学校にてリトミック国際ライセンス、ダルクローズ音楽院 (スイス・ジュネーヴ) にて国際ディプロマを取得する。日本国内で後進の育成を行なう他、韓国、シンガポール、アメリカ、スイスなど海外の講習会でも指導を行なう。2018年からは日本ジャック＝ダルクローズ協会 (国際リトミック指導者連盟日本支部) 会長を務め、現在に至る。